

CITY OF YOKOHAMA

循環型社会への加速に向けた  
日本初「地区の資源循環の可視化」  
を開始

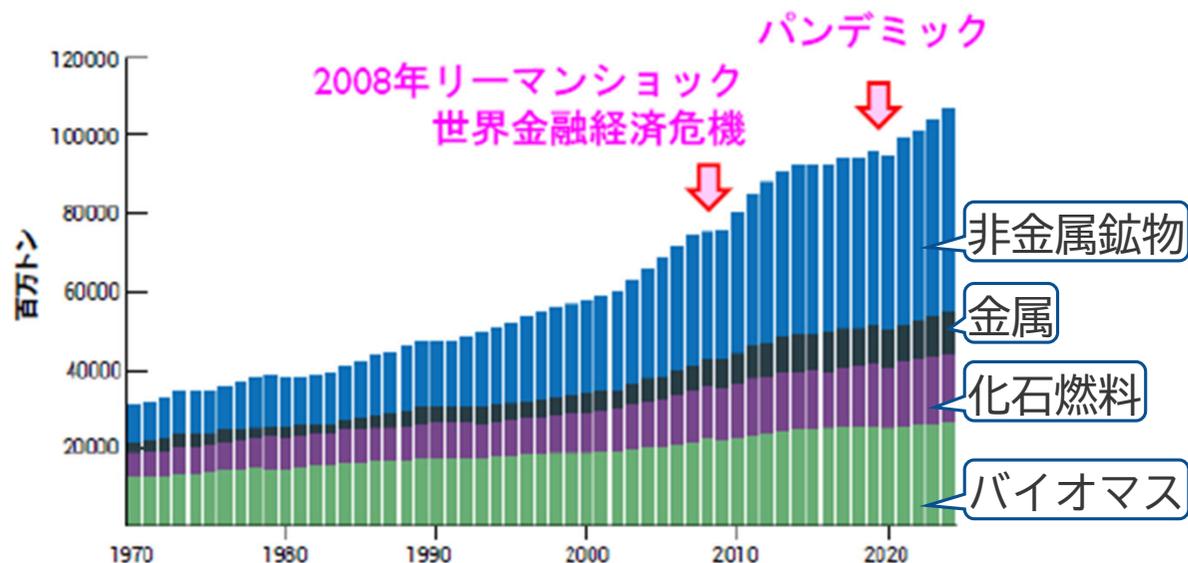
令和7(2025)年2月13日  
市長定例記者会見

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

## 資源循環を取り巻く世界の状況

- 資源の消費量は過去50年間で3倍以上に増加（1970年比）
- 2060年までに5.2倍（1970年比）に増加する可能性  
⇒ 消費増大に伴い、気候災害の激甚化、生物多様性の損失の加速化

主要な資源ごとの世界全体の採取量

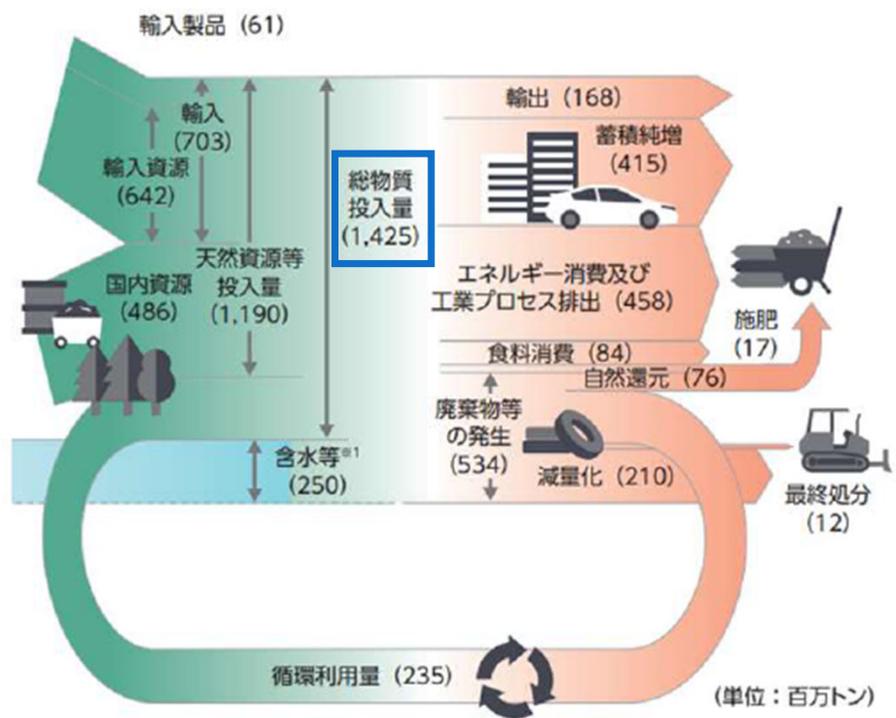


出典：国連環境計画 国際資源パネル  
(UNEP-IRP: International Resource Panel)

- 欧州では、新車製造時の再生材の最低含有率（25%）の義務化が提案されるなど、今後、リサイクル資源の利用の義務化が拡大すると見込まれる

- 資源循環分野の競争力強化
- 循環型社会の実現  
に向けた取組強化が求められる

日本政府が定める「循環型社会形成推進基本計画」では、資源循環の取組を推進するため、どれだけの資源を採取、消費、廃棄しているかというものの流れ（物質フロー）の全体像を示している。

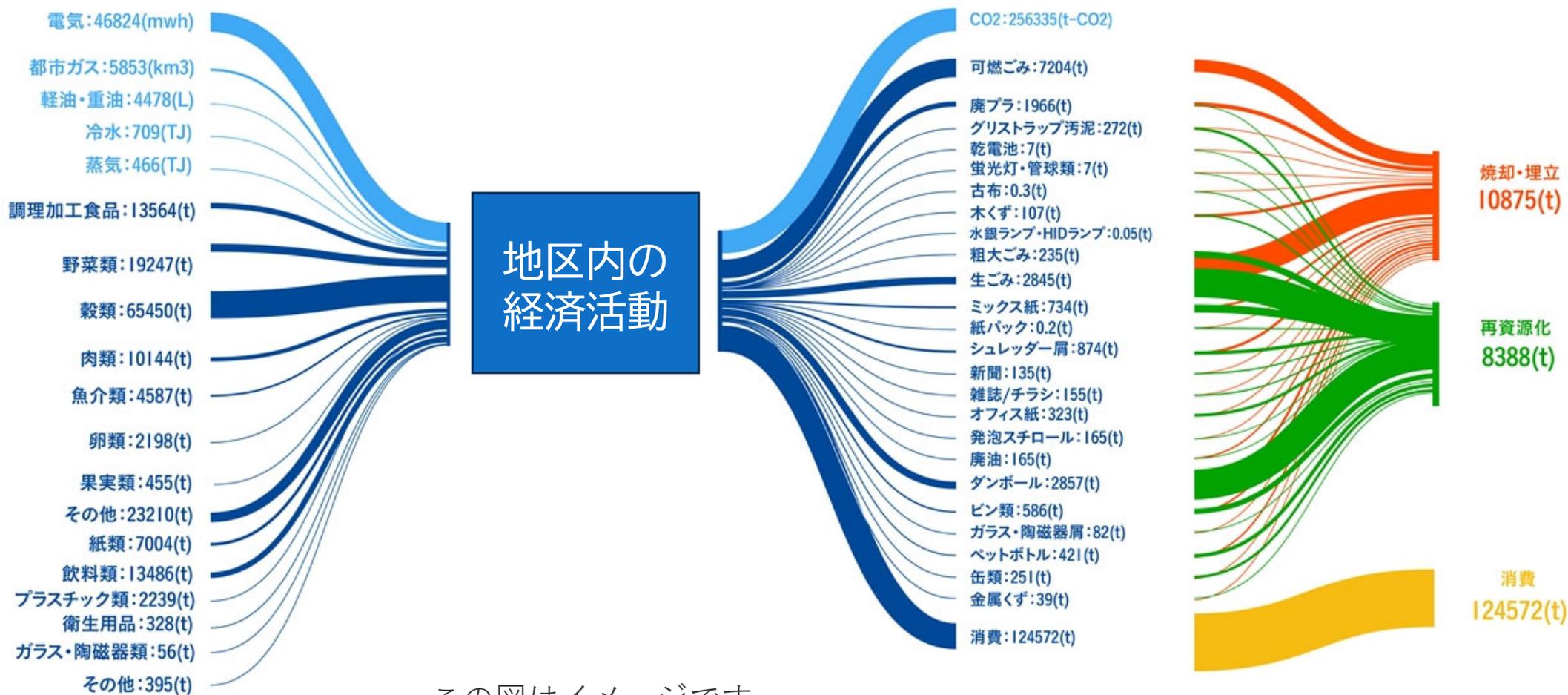


2021 年度

出典：第五次循環型社会形成推進基本計画の概要

物質フロー図

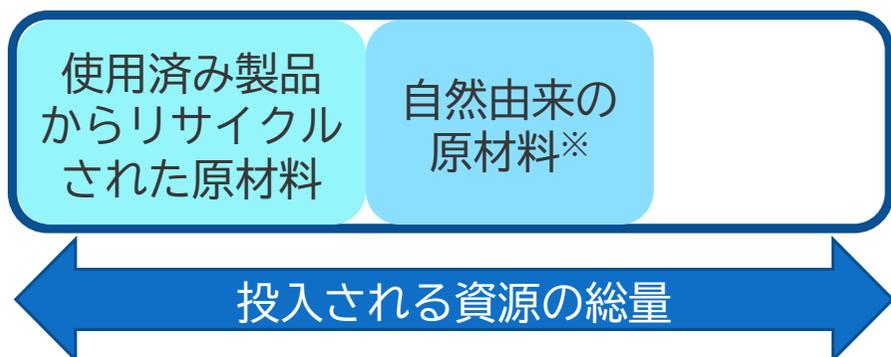
# 「資源循環」を可視化するとしたら



この図はイメージです

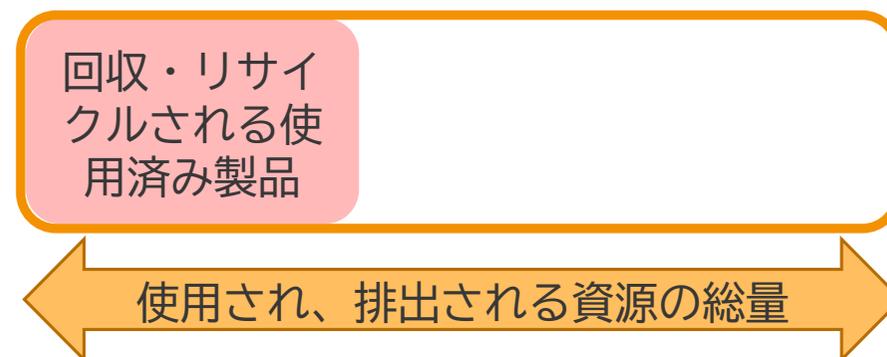
- 課題：循環率の把握と管理
- 一定の範囲におけるサーキュラーエコノミーの進捗が評価できていない
- 国際的には、一部で、ものの流れや、定量指標を用いた評価が始まりつつある

### サーキュラー・インフロー率



※持続可能な方法で生産されたもの  
(例：認証取得)に限る

### サーキュラー・アウトフロー率



## これまでの資源循環の取組の一例

みなとみらい地区（脱炭素先行地域）において、資源循環の推進を目指す  
みなとみらいサーキュラーシティ・プロジェクトを2023年3月より実施

2024年度の実証実験を経て、2025年1月から地区23施設が連携し、  
ペットボトル「ボトルtoボトル」水平リサイクルの社会実装を実現



ヨコハマSDGsデザインセンターとの連携事業



# 横浜市における新たな取組

日本で初めてとなる  
地区内における資源の流れを可視化する取組にチャレンジ

脱炭素先行地域に選定されている  
みなとみらい地区にて実施



# 取組における連携事業者

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA

ヨコハマ SDGs デザインセンター



Harch



# RECOTECH

## 参画主体名 (計13主体・五十音順)

神奈川県 みなとみらいキャンパス	みなとみらい21熱供給センタープラント
クイーンズスクエア横浜 全体共用部分・ 専有クイーンモール等部分	みなとみらいグランドセントラルタワー
クイーンズスクエアB・C	横浜赤レンガ倉庫
京急グループ本社	ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル
パシフィコ横浜	横浜みなと博物館
MARK IS みなとみらい	横浜ランドマークタワー
MARINE & WALK YOKOHAMA	

## 資源循環を可視化する目的

### 目的

- ・サーキュラーエコノミーを評価する指標を確立
- ・具体的なアクションを検討する土台を整備

### 現状分析

可視化・データ化の仕組みづくり

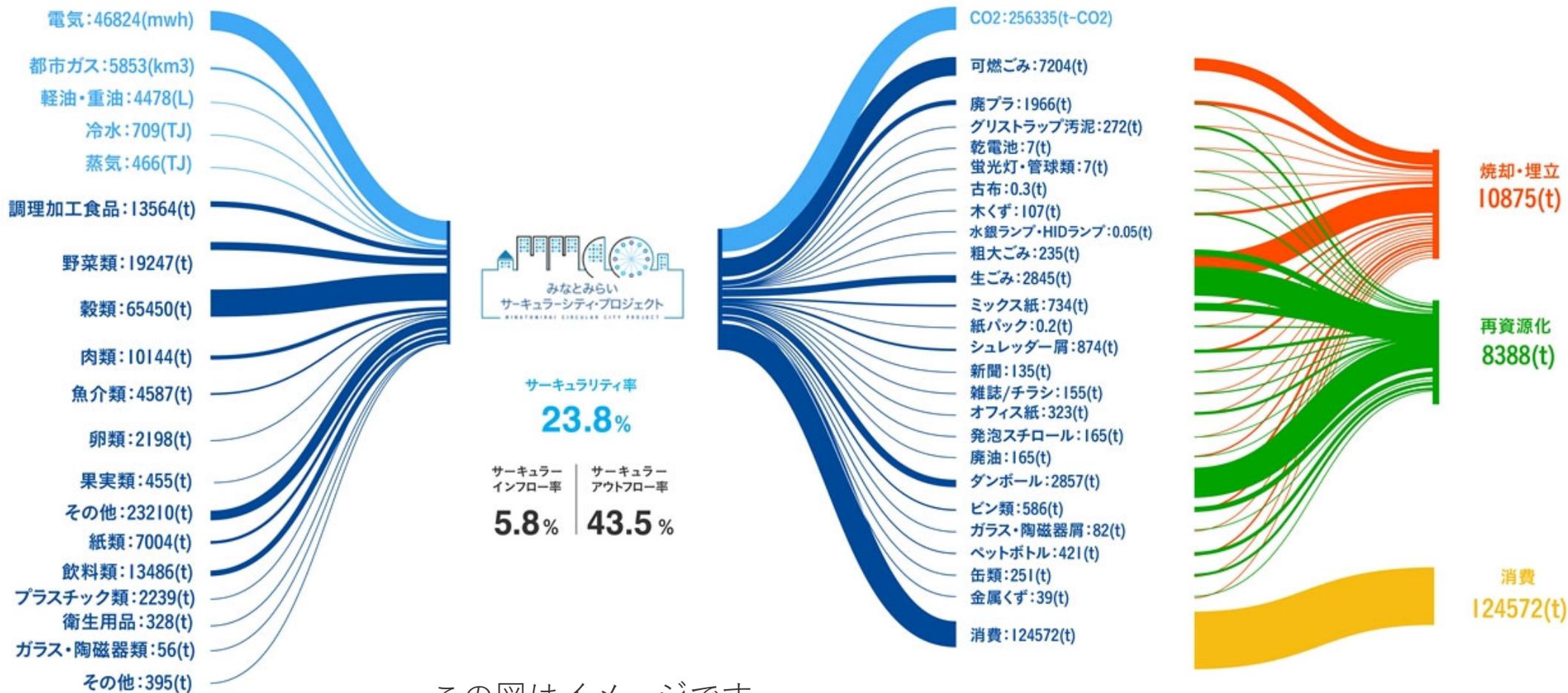
### 戦略策定

データに基づく方針決定・アクション  
ex. 有効利用の余地がある資源の洗い出し



サーキュラーエコノミー推進による温室効果ガス排出量削減

# アウトプット・イメージ



この図はイメージです